

13) 山口県

真崎 博 (山口県植物研究会)

(1) はじめに

2009年初頭、真崎 久を通して西日本タンポポ調査への参加についての打診があった。山口県植物研究会として「中国・四国の各県が参加する調査に山口県だけが不参加ということはない」と考え、会員に調査への参加を呼びかけた。16名の応募があり実施の目途がたったので参加することにした。調査担当地区の割り当て、調査票の配付等を急ぎ、調査を開始した。

(2) 調査への取り組み

時間的余裕もないので、山口県植物研究会員だけで調査することにし、標本を本部へ送ることは私の能力を超えるので調査票（またはその一覧表）だけを頂けばよいことにした。

(3) 結果の概要

- ① 2009年、会員各位の熱意ある調査により、その総数は約3,000件になり、ヤマザトタンポポ、ナガトタンポポ（仮称）、アカミシロタンポポ（仮称）が記録された。
- ②2010年には2009年に入会された会員にもお願いして調査に加わって頂き、調査件数は前年と合わせ約4,000件、またトウカイタンポポ、モウコタンポポ、ツクシタンポポ、アカミセイヨウタンポポ（仮称）、ウツイタンポポ（仮称）が記録された。

(4) 山口県のタンポポ属

山口県植物誌（岡ほか、1972）にはシロバナタンポポ、ヤマザトタンポポ、カンサイタンポポ、セイヨウタンポポが記載され、山口県産高等植物目録（岡ほか、2000）にはアカミタンポポが追加され、2009年3月の時点でキバナシロタンポポ、キビシロタンポポもあることが判っていた。この7分類群のタンポポの検索表を配付し、これに該当しないタンポポの標本は送って下さるよう依頼した。

2年にわたる調査により県下のタンポポ相が大きく増加した。そのタンポポの同定理由も兼ねて現時点での山口県産タンポポ属の検索表を記し、若干の説明をしておきたい。

- 1 総苞外片は反り返って垂れ下がる
 - 2 瘦果は褐色 a セイヨウタンポポ
 - 2 瘦果は赤紫色 b アカミタンポポ
 - 2 瘦果は帯赤褐色 c アカミセイヨウタンポポ（仮称）
- 1 総苞外片は内片に密着するか、または開出するが垂れ下がることはない
 - 2 舌状花は白色
 - 3 大型で総苞外片は開出し、目立つ小角突起をもつ d シロバナタンポポ
 - 3 やや小型で総苞外片は内片に密着し、小角突起は目立たない e キビシロタンポポ
 - 2 舌状花は黄色
 - 3 総苞外片は開出し、小角突起が明らかである
 - 4 瘦果は淡褐色 f キバナシロタンポポ
 - 4 瘦果は赤紫色 g アカミシロタンポポ（仮称）
 - 3 総苞外片は内片に密着する

- 4 総苞は大型、花期の長さ15～20mm
- 5 総苞外片は小角突起が目立つ h トウカイタンポポ
- 5 総苞外片の小角突起は目立たない
- 6 総苞外片は内片の1/2より短く、小角突起はない i クシバタンポポ
- 6 総苞外片は内片のほぼ1/2で、小角突起は小さい j ヤマザトタンポポ
- 4 総苞は小型、花期の長さ13～14mm
- 5 総苞外片の小角突起が目立つ
- 6 総苞外片は内片のほぼ1/2 k モウコタンポポ
- 6 総苞外片は内片の1/2より長い l ウツイタンポポ（仮称）
- 5 総苞外片の小角突起は目立たない
- 6 花粉は大小不齊 m ツクシタンポポ
- 6 花粉は正常
- 7 総苞外片は内片の1/2に達しない n カンサイタンポポ
- 7 総苞外片は内片の1/2以上からほぼ同長 o ナガトタンポポ（仮称）

(ノート)

- c アカミセイヨウタンポポ（仮称） 瘦果の色によってアカミタンポポとセイヨウタンポポの雑種と推定した。かなり広く見られるように思われる。
- e キビシロタンポポ 2010年 松井茂先生により秋吉台に現産することが確認された。
- g アカミシロタンポポ（仮称） 総苞外片の形と瘦果の色によりアカミタンポポとシロバナタンポポの雑種と推定した。この形態で繁殖している状態が観察された。
- h トウカイタンポポ 始め下関市内日上で秋丸浩毅氏によって報告された有性生殖種であるが、その後県西部に点々と記録された。愛知教育大学教授 芹沢俊介先生から「形態的にはトウカイタンポポと区別できない」とお聞きし、トウカイタンポポと呼んでおくことにした。
- i クシバタンポポ 山口県植物誌にヤマザトタンポポとして記載され、その後周南市周辺で記録されていたタンポポは芹沢俊介先生の御指導によりクシバタンポポであることが判った。
- j ヤマザトタンポポ 2009年に岩国市錦町で記録されたもので、2010年、秋丸浩毅氏が山口市徳地町、松井茂生氏が美祢市秋芳町で記録した。
- k モウコタンポポ 2010年、下関市蓋井島での福富郁夫氏の採集標本を検討してモウコタンポポと同定した。また山根文人氏が萩市むつみ町千石台で記録した。
- l ウツイタンポポ（仮称） 下関市内日上で真崎 久が記録したタンポポはナガトタンポポによく似ているが、総苞外片に目立つ小角突起があり、花粉が不齊であった。近接して生えているトウカイタンポポとナガトタンポポとの雑種と推定した。
- m ツクシタンポポ 2010年、松井茂生氏によって美祢市秋芳町で記録されたタンポポを原色日本植物図鑑によってツクシタンポポと同定した。
- o ナガトタンポポ（仮称） 頭花はカンサイタンポポによく似るが、総苞外片が内片の1/2以上からほぼ同長で、葉は中裂～浅裂から緩い波状縁、花粉は正常であった。カンサイタンポポとは別分類群であろうと思われたので、下関市内にやや広く見られることでナガトタンポポと呼ぶことにした。分布図には、オオズタンポポ（仮称）とした。



(5) 文献

岡 国夫ほか、1972. 山口県植物誌、pp. 530-431. 山口県植物誌刊行会、山口。
 岡 国夫ほか、2000. 山口県産高等植物目録、pp. 70-71. 山口県植物研究会、山口。
 奥山春季編、1977. 寺崎 日本植物図鑑. 862pp. 平凡社、東京。
 北村四郎ほか、1984. 原色日本植物図鑑 草本編 [I] 合弁花類、pp. 12-14. 保育社、大阪。
 時田房江、1997. モウコタンポポ. わたしたちの自然史、(99): 21. 北九州市立自然史博物館。
 Morita T. Taraxacum WEBER ex F.H.WIGG. In: (Iwatsuki K., Yamazaki T., Boufford D.E. et Ohba H. eds.) . Flora of Japan vol. IIIb, pp. 7-13. 講談社、東京。

(6) 調査者氏名 (50音順・敬称略、地区担当者と同行者ほか)

秋丸浩毅、安溪大慧、安溪貴子、安溪遊地、今田岳村、内田ひかり、桑田健吾、酒井智恵、酒向令恵、咲花文隆、末広雄次、瀧本美智子、寺森正行、中村恵津子、中村 久、西山 敢、福富郁夫、前崎光生、真崎和子、真崎紅子、真崎 久、真崎 博、舛田良樹、松井茂生、松崎秀人、三井紀久恵、南 敦、三宅貞敏、山根文人

(7) 謝辞

2010年、山口県に來られて御指導下さった芹沢俊介、鈴木 武両先生、モウコタンポポに関する情報を恵与下さった北九州市の時田房江氏、2年にわたり熱意をもって調査に取り組み、大きな成果を挙げて下さった調査員各位に深謝申し上げます。

